



主はわたしの光、わたしの救い

2013年7月



「主はわたしの光、わたしの救い。」 主は慈しみ深い父として、私たちといつもともにいてくださり、弱い私たちを即座に許し、受け入れてくださるのです。しかし、罪に落ちたあと神の目を恐れて身を隠したアダムのように、私たちがいつも主に前にいるわけではありません。

私たちは自分の弱さを知っています。神からお恵みをいただき、その恩恵に預かっていることを、いとも簡単に忘れてしまうのです。それに、犯した自分の過ちや信仰心の薄さまでも忘れてしまうのです。そこで、今日のミサにある美しい祈りを、謙虚な気持ちで繰り返す捧げることがとても大切になります。「主よ、私たちの罪をお許してください。救い主である神様、御名の栄光のために私たちを助けてください。」 私たちが絶えず神様のお恵みに助けられていようと、また、幾度となくゆるしの秘跡を受け、ご聖体をいただいていると、私たちは毎日、次から次へと過ちを犯すものであることを認識し、日々を新たにしていかなければなりません。



しかし、私たちがどれほど努力しても、聖ペテロの網のように、私たちの手の中は空っぽだということに気づきます。しかし、がっかりしないでおきましょう。なぜなら、自分の弱さや罪のために苦しめば苦しむほど、私たちは、イエスの救いの力に全幅の信頼を寄せて、イエスのもとに駆け寄ることになるからです。

イエスは私たちを、みなし児のように見捨てられることはなく、むしろ、私たちのそばに留まってくださるための明確な方法として、この上なく神聖なご聖体とみ心となって、いつも私たちとともにいてくださっているのです。イエスは、御体と御血、霊魂と神性であるご聖体として実際に存在しておられるのです。

イエスのみ心の祝日での入祭の歌にあるように、「み心—イエスのみ心—のお考え」は、イエスの愛で、「すべての世代の人々を、死から救いだし、飢えの時に食べさせる」ことなのです。このようにイエスのみ心は、救いの手を差し伸べ、罪のわなから解き放ち、その御血で洗い、その御体を食物として与えることのできる魂を、いつも探しておられるのです。そして、このイエスのみ心はいつもご聖体の中に生きておられ、イエスを待ち望むすべての人の飢えを満たしてくださいます。また、毎日の生活の中でのもめ事や苦痛、そして災難の末絶望してイエスのもとへ逃れきて、平和と安息を求めるすべての人を受け入れ、元気にしてくださるのです。聖書にはこう記されています。「私はあなたを永遠の愛をもって愛した。だからこそ私はあなたに憐れみをかけ、あなたを引き寄せたのである。」

そして、「子よ、あなたの心を私に与えなさい。」とも記されています。

これが、本当に主のみ心に身を捧げるということの真の姿です。愛のために愛を返し、愛で愛に報いるのです。



私たちがどんな心構えで霊的な生活をおくるかは、私たちが神のことを、また神の愛をどう考えているかに、大きくかかってきます。私たちが神についてのイメージを、なすべきことをしない召使いであるとか、使用人の幸せをうらやみ、意地が悪く、怒りっぽい雇い主というよ

うな、貧弱なイメージしかもっていないければ、神を愛すること、また私たち自身を広い心で神の御業に捧げることが強く求められていても、私たちは、冷淡で、怠惰で、打算的になり、主からさげすまれたタレントを無駄にすることになるでしょう。

しかし、神が憐れみに満ちた方あることを一度でも理解し始めるならば、また、神の永遠の愛の神秘をほんのわずかでも深く考えようとし始めるならば、すべては変わるのです。なぜなら、愛が愛を招くからです。

イエス・キリストの神秘の奥深さを掴みとり、その永遠の愛の神秘をなんとか理解したいと願う魂は、主のみ心の中に入り込むか、敬愛する方の胸の中に身を隠す以外、ほかに方法がないことが分かるでしょう。であれば、イエスのみ心を逃げ場とし、主の神秘と愛を深く見つめ、私たちの内なる命の隠れ場を求めましょう。それは私たちが、いつでも自由に引き返すことのできる場所であり、仕事や毎日の勤めの真ただ中であっても、その場所に戻ることができるのです。うわさや好奇心、ゴシップ、その他世の中のいろいろな虚しい事柄が私たちが力づくで覆いつくそうとしても、心の動きをイエスのみ心へ切り替えて、そういうことからさっさと退散しましょう。





今日の福音で、イエスはこう言われました。「わたしがいないければ、あなたたちは何もできない。」シモンと彼の仲間、一晩中漁をしていましたが、何も捕れませんでした。もし私たちに霊的な生活で多少の経験があれば、こういうことは私たちにも起こりうるものだと気づくことでしょう。

聖ペテロは言います。「お言葉ですから、網をおろしてみましよう。」漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい数の魚がかかりました。

イエスは言われます。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」どのようにイエスの言葉を聞き、その言葉をどう信じればよいのか、学ばなければなりません。

みなさん、私たちは、イエスのみ言葉により頼み、日々を新たにしていきましょう。そして、同じ確信を持って語った聖ペテロを思い、その「主よ、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」の言葉を、繰り返し唱えましょう。そして、願わくは、人生でのもめ事や苦痛、災難から私たちを守ることとで、神の神秘と神からいただいている贈り物のすべてが、私たちを清め、その目的を果たすことができますように。 アーメン

ラファエル植田勝行神父の米国での住所

St. Francis de Sales Oratory

2653 Ohio Avenue

Saint Louis, Missouri 63118

王たる宣教会のホームページ<<http://icrsp-jp.org>>

Email: sfds@institute-christ-king.org